

小柳司氣太・日記（四）

『思くさ』

凡例

- 1、原本はB6判の大学ノート（13×20cm）に墨書で横書きに書いてあるので、そのままの体裁を取った。新聞などからの抜粋記事を鉛筆で書き記しているが、あえてその表示はしなかった。
- 2、漢字は原本通りとした。但し、「戸」は（婦）に当てた。
- 3、仮名はほとんどカタカナであるが、変体仮名は平仮名に直した。また、造字の「は」はコト、「ト」はトモ、「キ」はトキにした。「耳」「子」をカタカナとして使用している場合は「ニ」「ネ」とした。
- 4、外国語はそのまま示した。
- 5、明らかな誤字は〈 〉をもって訂正した。
- 6、解読不能の文字は、推測可能な文字を宛て、尚不能な場合は文字数を□で示した。
- 7、改行は「」をもって示した。
- 8、二行ワリの改行は／をもって示した。
- 9、読みやすくするため適宜句点、のみ付した。
- 10、[] は編者の補注である。
- 11、編集の都合上、各ページの冒頭に〔1頁〕の様に示した。
- 12、全体を通して英語の部分は、米国イリノイ大学のDr.Ronald.p.Tobyの御教示をいただいた。

（浅見 恵）

十九日 雨

ケシノ花開ラク
寺僧茶ヲ製ス
岩村氏ハ宮中顧問官ニ任ゼラレ」タリ
士族授産金ノ事ニ付キ、高崎府」知事
ハ輿論ノ攻撃ヲ受ケ、遂ニ元」老院議
官ニ轉ジ、蜂須賀茂韶」侯其後任ト
ナレリ

二十日 晴

早川 山崎二氏ヲ訪問ス
帝国大學總長渡辺洪基氏ハ全」權公使
ニ、加藤博士其後ヲ」襲ヘリ

[35頁]

二十一日 晴

山崎氏ニ行キ金廿五円請取」ル

菖蒲花二三輪開ラク

山崎氏ヨリ書状来タル
ゲーキー氏地文洋海論迄デ」読了
地震アリ
露国ハ朝鮮慶興府ノ前頭ナル（りく」
とう）ヲ浸領シ、且ツ元山ニ火薬庫建」
築地ヲ請求シ、同政府ヨリ之ヲ借用」
セリ
小林友平ナル者首領トナリ、神代復」
古ナル者ヲ以テ欧州ニ行ハル、社」會
党ラシキ者ヲ組織シ（無形上ニ）」少
事理ニ通ジ、才氣ニ富ミタル者モ」ア
リテ、會員一萬人モアルヨシ

二十二日 晴

伊呂波屋ニ行キ本ヲ貸リ、同店ニ」於
テ偶然阿部氏ニ遭フ

依田雄甫氏ヲ訪問ス

野田氏ニ書ヲ發ス

挿入紙

錦町荅丁目拾貳番地

和田榮十郎 (伊呂波貸本屋向へ)

二十日午前十二時

金費十匁

[36頁]

海軍少将伊東萬吉氏ハ海軍次官ニ、滋賀縣知事井中弘氏ハ元老院議官ニ、同院議官岩崎小二郎氏ハ其後ヲ襲フヒ、又石川縣知事岩村高俊氏ハ愛知縣知事ニ、元老院議官船越衛ハ石川縣知事ニ任ゼラレタリ

二十三日 晴

山崎 保倉二氏ヲ訪問ス

敬業社ニ往キAtlasヲ購フ求ス

職工ノ勢力欧州ニ蔓延ス

二十四日 晴

家君ヨリ書状來タル

祖父君ト共ニ志石園及ビ郵便會社ニ

到タリ、飯路浅草ヲ過ラ過ギPan

oramaヲ觀ル、圖ハBatt

les of Vicksburg也

平山省齊氏逝ク

[37頁]

祖父君ト共ニ熊倉 保倉二氏ヲ訪問ス

小林魁郎氏ニ高等師範學校前ニ、永

井氏ニ本郷通ニ邂逅ス

更科文三郎氏來訪

二十六日 雨

本郷電信局ニ至タリ電報ヲ出タス

二十七日 雨

更科氏ヲ訪問セント欲シテ行キシガ、

坂下ニ邂逅ス

山崎氏ヲ訪問ス

二十八日 雨

電報ヲ發ス

更科室 保倉 熊倉二氏來訪

熊田氏ヲ訪問シタリト雖モ不_レ在ナリ

キ、佐藤敬三郎氏等_レ在宅ナリキ

夏シャツ (縞) ヲ購求ス

[38頁]

二十九日 晴

山崎 熊倉二氏ヲ訪問ス

更科氏來訪

熊州ニ於テ暴動起コリ、諸官_レ署ヲ襲

ソヒタリ

三十日 晴

祖父君ト共ニ保倉 山崎兩氏_レヲ訪問ス

慶応義塾幼稚舎ニ行キテ渡辺氏ニ面會ス

真砂町ニ於テ、大島氏ニ邂逅ス

市町村會議員衆議院撰舉罰則_レ等ヲ發布ス

更科氏來訪

三十一日 風少雨

祖父君歸郷、更科氏ト共ニ上野_レ迄テ送ル

山崎氏ニ書状ヲ發ス

熊州ノ暴動ハ自由派ノ無智ナル_レ者ナリ

[39頁]

六月一日 晴

大學並ニ圖書館ニ行ク

熊倉氏ヲ訪問ス

六月二日 晴

依田氏ニ書ヲ發ス

大學事務局ニ至タル

圖書館ニ至タル

二十三年徵集新兵ハ、陸軍一万八千八百

六十人、海軍一二四六人合計

二〇一一五人ナリ

北海道ノ漁獵高ハ、一昨廿一年_レ間ニ

五百九十五万八千百三十一円也
屯田兵ハ千五百九十五戸、人員八千」
二百六十七人、又各処ノ礦物ハ、二十」
一年ノ採掘高一三三〇六〇五九貫」目
(94491Ton)ナリ
鳥尾子ハ辭職シタリ
前田正名次官ハ元老院ニ轉任ス

三日 晴

圖書館ニ行ク
依田氏ヨリ書状來タル

[40頁]

依田氏ヲ訪問シ並ニ雛(田)氏ヲ」駿
台ニ訪フ、熊倉氏亦來訪
□□數時大ニ興味アリ、蓋タシ」先輩
ノ経歴ヲ聞クハ一樂事也
氏ト共ニ萬代世ガ橋辺ヲ過ギ蕎」麦ヲ喫
シ、天神坂口ニ至タリテ」分袂ス、此
夜月中天ニ懸カ、リ」晴空上野山下涼
氣人ヲ襲ソフ
帰宿時二十時也

四日 晴

山崎氏ヲ訪問ス
大學ニ行キ受験願書ヲ出タス
金五円受験料トシテ徴収セラ」ル
家君ニ書ヲ送クル

五日

石塚氏ト共ニ切通ニ至」タリ、独逸文
典ヲ購求ス

[41頁]

六日 晴

午前三省堂ニ到タリ、不用の書」藉ヲ
賣却シテ壹円拾錢ヲ得タリ
之ニ加フルニ、祖父君ヨリ賜ハリシ」
金額ヲ以テシ、合計三円五拾錢」ヲ以
テ独和字典ヲ半田商店ヨ」リ購求ス
丸善ニ行ク
平松氏 熊倉氏ヲ訪問ス
早川氏ヲ訪問シタリト雖モ不」在ナリ
木村氏ヨリ書状來タル

鈴木先生並ニ木村氏ニ書状」ヲ送クル
今日大鳥 小林艦郎ノ二氏ニ」邂逅ス
帰路植ト共ニ至タル

七日 晴

更科氏來訪
陸軍中将彰仁親王及ビ山縣中」將ハ、
陸軍大将ニ三好中将監軍」ヲ兼ネ、川
上 野崎桂三小將ハ

[42頁]

中将ニ皆今日叙任、其外ノ陸軍部」内
ノ變革アリタリ
昨日松平春嶽侯薨去
朝鮮国大王大妃ハ四日崩御
貴族書記官長金子氏ハ、六日帰朝
米價益騰貴、一等米七升四合」(一合高)、
三等米七升七合、五等」米八升二合
(何レモ二合高)ノ□賣」景況ナリ

八日 晴

木村氏來訪、鈴木先生ノ書翰」ヲ渡タ
ス、同氏ト昼飯ヲ共食ス
宅ヨリ衣類來ル
解良氏ニ書状ヲ發ス

九日 晴

宅へ書状ヲ送クル

十日 大雨

此日貴族院議員撰舉執行
新潟縣ヨリ市島徳次郎當選ス

[43頁]

十一日 雨

伊呂波屋ニ至タル
豕ヲ煮ル

十二日 晴

圖書館ニ行ク

十三日 晴

伊呂波屋ニ行キ且ツ雛田氏ヲ訪問」ス
圖書館ニ於テ畠山氏ニ邂逅ス

時節柄故、醬油等兎角徴ヤスシ
由リテ手拭ヲ以テ、必要ノ時ニ之ヲ漉
ス
古人有詩、漉酒便烏帽呼雲当白衣
余ヲ詠セシメハ、将ニ何ト云フベキ乎、
然」カシ五斗米ノ一事ハ、抑解折腰非
トニハ」アラザレド、又學ブベキカ
高趣義皇近」此人魏晉稀フハ、容易ニ
企ハテ及ヨブ」ベカラズ
帝国大學理科ノ中ニ農林學校ヲ」加ハ
フ
朝野新聞ヲ廢読シテ、日本新聞ヲ」購
読ス、此兩新聞ハ当時出色第一

[44頁]
ナリ

十四日 晴
圖書館ニ行ク
羅甸語読了

十五日 曇
熊倉 関二氏ヲ訪問ス
早川氏ヲ訪フ
霜鳥二郎ヲ訪フ、不在也
羽陽館ヨリ書状來タル

十六日 晴
伊呂波屋 大學事務局 本郷区」役所
雛田氏ノ四処ヲ回」訪ス
鶴巻氏ニ雛氏ノ宅ニ會ス
寺僧菊ヲ摘ム

[45頁]
十七日 晴

文科大學ヨリ書状來タル
明治廿年四月ヨリ二十一年三月ニ至タ
ル」週年間、内務省土木局直轄並ニ
各府縣廳」ニ係ル土木実費ハ、九百七
十八萬五千七百七十」七円ナリ
土耳其使節オスマンパシャ氏、過日天
皇陛下ニ」謁見、同国勲章ヲ贈進シ奉
ツレリトゾ
府下ニテ活計立タズ、逃亡者多、各警

察」署ニ搜索ヲ出願スル者日々数十人
ニ上」ボリ、中ニハ七八歳ナル小児ヲ
置キ去リ」ニシタル者モアル由ナリ

十八日 晴

昨夜佐藤氏ニ一泊シ、今晝飯」宅ス
風来山人根奈志草ヲ読ム、諷世」潮俗
之ヲ行ルニ諧謔ヲ以テシ、筆」端窟東
ノ跡敢テ見ハレズ、当時」特色ノ者ト
謂フベシ
芳季ヲ読ム、是亦明治小説風ノ一」頭
地ヲ出ダシタル者、彼ノ佳人才子」痴
蝶狂蜂芍薬塞垣ノ比ニア

[46頁]

ラズ、嚮キニ風流佛アリ、今亦」此著
アリ、文學社會ノ為メニ一氣焰ヲ添ヘ
タリ、右読了、依田先生ノ」篋ヲ読ム、
極メテ小文字、支那小説」ヨリ脱化シ
タル体ナリ、所謂ユル」毒ニモナラズ
藥ニモナラザル者ナ」リ、以上三書佐
藤氏ニ於テ之」ヲ覽ル、閉卷時ニ午前
第一時ヲ」報ズ
入學試験期日遷延不快、甚ハダ」ウル
サキ事也
鶴巻 熊倉二氏來訪

十九日 晴

共益商社へ書状ヲ發ス
一月頃懸賞応募シタル少年文武」ノ詩、
最早如何ナリシカ忘レタリシニ」今日
突然該社ヨリ其賞トシテ」冊寄贈セ
ラレタリ
熊倉 霜鳥二氏ヲ訪問ス、不在

二十日 晴

熊倉氏ヲ訪問ス、不在

[47頁]

甲地ノ撰舉人勝利ヲ得ンガ為メ、乙」
地ニ移轉スル風往々各地方ニ見」ハル、
実ニ奇々妙々
米廩拂下米アリ、当日平均ノ高直ハ一
斗」0二合五勺、安直ハ一斗七合ニ落

札セリ

二十一日 晴

此夜本郷通ニ至タリ漬物ヲ購求ス
司法省官制（試補五人、属百六十人）
専任参事官五人、専任書記官三人）
文部省官制（専任参事官、専任書記官各
四）人、視學官五人、技師二人、試補
四人及」技試（師カ）試補一人、属百三
十人、技手四人」ヲ置ク）、農商務省官
制（農商務省試補」五人、技師十七人、
審査官補十二人、技手」五十六人、技
師試補十二人、専任審判」官二人、専
任審査官七人、属二百人）」技師十八人、
技師試補六人、技手二十五」人、書記
五人（以上日頃農商務内地質」調査所
ニ属ス）ヲ發布ス

日和火礦業會社失敗、高橋氏帰朝
損失十六萬余円、我国海外大商業ノ」
初陳、独逸商ヘーレン、曾我、藤村

[48頁]

二十二日 晴

早川氏ヨリ書状来タル
熊倉、雛田、佐藤、木村四氏来訪」シ
共ニ上野ニ至タリテ寫真ス、蕎麦店ニ」
登ボリ各人食スルコト各六（ザル）腹
便々
然婦路路ヲ轉シ熊倉氏ト分袂シ」雛田
氏ノ宿ニ至タリテ帰ヘル、時ニ」五時
也
官吏恩給法ヲ發布ス

二十三日 晴

熊倉氏並ニ早川氏ヲ訪問ス
午前十時半頃、大學ノ方向ニ黒煙
第一ニ起コル半鐘、第二ニ鳴ル人車」
第三ニ雑沓、直チニ門ヲ出デ、之ヲ」
望ゾムニ猛烈ノ祝融ナルコトヲ想」像
セシメタリ、熊氏ノ大學ニ在舍スルヲ」
以テ心元ナク疾駆シテ至レバ、大學」
ニアラズシテ春木町ナリ、旧樫毒病」
院前ノ四辻交番ニ至タル、至タレバ
人々」雑沓進ム能ハズ、且ツ火勢風勢

ト」相乗ジ、瞬間九百余戸、烏有二飯
ス、午後一時四」十分ニ至タリテ鎮火ス、

[49頁]

此頃の都の空はほと、ぎす
血になく声が日にまさり行
ほと、ぎす血になく声を聞ながら
月にうかる、雲のうへひと
以上二首或人ノ詠也

二十四日 晴

更科 銀太郎ノ二氏来訪ス
皇后陛下貧民救卹ノ思召ヲ以テ」当分
毎月三百円宛、東京養育院ニ下賜」相
成ル旨達セラレタリ、有難事共也
官吏遺族扶助料水利組合條例」ヲ發布
ス

二十五日 晴

関氏ヨリ書状来タル
関氏ニ返書ヲ送クル、其文ニ曰ハク
草翰只今拝読、他處穿索致候も」煩處
候間、□y a k w a nへ移轉致べ」ク
候、尚ホ明晩午後七時半頃一」寸罷出
ベク候間、御在宅被下度候」餘情拝眉
の上、委曲可申述候、 匆々拝復

[50頁]

二十六日

大學ヨリ書状来タル
大學ニ往ク
圖書館ニ往ク
関氏へ書ヲ發ス
佐藤氏ヲ訪問ス

二十七日

大學へ行ク
圖書館へ行ク、哲學史ヲ讀ム
熊倉氏ヲ訪問ス
大蔵省官制發布（属五百五十二人）

二十八日 晴

撰科入學試験執行セラレ」余ハブツセ
氏ノ下ニテ論理」学ヲ受ケタリ

熊倉 山崎 関三氏ヲ訪」問ス
外務省官省發布 (属百人)

二十九日 雨
此日羽陽館ニ移轉」ス

[51頁]
家大人ニ書ヲ呈シ、并セテ日本新聞」
社 早川 更科諸氏ニ送クル

卅日 晴曇
佐藤氏ニ書状ヲ送クル
リース氏ヨリ歴史地理地文学ノ」試験
ヲ受ク、七時ヨリ正午ニ至タ」ル
熊倉氏來訪 (昨夜) 今晩帰舎」セラル
雛田氏等轉宿於羽陽館
下宿料騰貴
雛田氏ヨリ書状來タル

卅一日 ナシ

[52頁]
七月一日 曇少雨
小林、日本新聞社ノ二処ニ書ヲ發ス
熊倉氏來訪
午後一時神田乃武氏ヨリ羅匈語ノ試」
験ヲ受ク
大學ヨリ書状來タル
行政裁判法發布植村正久同処長官」ニ
任ゼラル
衆議院議員撰舉ヲ執行ス

二日 雨
小中村清矩博士ヨリ日本」歴史ノ試験
ヲ受ク
午後二時頃フロレンツ氏ヲ」本郷東片
町五十二番ニ訪問」シテ独逸学ノ試験
ヲ受ク
更科氏來訪セラルト雖モ、不在ナ」リ
キ
内務省官制發布

三日 雨
ビール氏ノ下ニテ英語ノ試験ヲ」受ク、

此試験ハ実ニ閉口セリ

[53頁]
更科氏來訪、熊倉氏ヲ訪問ス
木村氏來訪

四日 雨
神田氏ヨリ英語ノ試験ヲ受クベキ」筈
ナリシカド、氏事故アリテ五日ニ延」
期セリ
霜鳥氏ヲ訪問セシト雖モ、今朝既ニ」
帰国セリト

五日
虎刺列病長崎ニ生ジ蔓延ス
神田氏ヨリ英語ノ試験ヲ受ク
撰科試験今日終了ス
頭痛岑々タリ
早川氏ヲ訪問シ、偶々田中氏モ」亦タ
來タル
佐渡暴民紛起ス、蓋タシ食ヲ得」ンガ
為メナリ、新發田兵卒鎮壓ノ」為メ向
ヘタリ
更科氏來訪ス

[54頁]
六日 晴
諸橋裕三郎氏ト共ニ、浅草 両」国
新橋ヲ經テ銀座丁ニ昼飯」ヲ喫ス、神
田天神坂上ニ至タリ」テ分袂、余ハ直
チニ佐藤氏ヲ訪」問ス、帰時三時ナリ
阿部氏來訪
此日風甚タシ

七日 雨
北海道官制發布
俄然冷氣、袷ヲ着シ人ニ對シテ (実ニ」
寒イネー) ト云フ

八日 雨
平松氏並ニ小林氏ヲ訪問シ、同家ニ」
昼飯ヲ喫シ、阿部氏ヲ訪問ス
帰時既ニ三時四十分ナリ
埃及近世史塩原彦助一代記」ヲ読ム

[55頁]

九日 晴

佐藤氏来訪

山際七司 長谷川恭 本山健治 鈴木

昌司 鵜飼郁次郎 加藤勝彌 関」矢

孫左衛門 丹後直平 小林雄」七郎

松村文次郎 西潟為蔵」室孝次郎

高岡忠郷 以上十三氏 ナリ

新潟縣撰出ノ衆議院議員ナリ

其他朝野知名ノ諸氏ヲ擧グレ」バ、楠

本正隆 藤田茂吉 高梨哲」四郎 大

谷木備一郎 津田真道」芳野世経

中江篤介 菊地侃二」島田三郎 山

田泰造 中島信行 石」田貫之助 青

木匡 高田早苗 濱野」昇 板倉中

渡辺治 新井章吾 栗原」亮一 尾

崎行雄 森東一郎 岡山兼吉」杉浦

重剛 河野廣中 鈴木萬次郎」山口

千代作 大江卓 宮城浩蔵」大久保

鉄作 杉田定一 遠藤秀」景 菅了法

犬養毅 末松三郎 井上正」一 大岡

育造 堀江芳介 陸奥宗光」児玉仲

児 関直彦 綾井武夫 三崎亀」

之介 折田兼至 河島醇

[56頁]

末廣重恭 竹内綱 林有造 片岡」健

吉 植木枝盛 岡田孤鹿 末」松謙澄

元田肇 箕浦勝人」天野為之 佐々

木友房 前田案山子」古莊嘉門 山

田武甫ノ諸氏ナリ

其数別表ノ如トシ (党派上)

62	大同
55	独立
15	九州進歩党
50	改進黨
33	愛國
4	保守中正派
9	自治
19	自由
52	未詳

職業上ノ區別

官吏

大臣 1

元老院議員 3

各省府縣官吏 27

郡区市長 36

合計 68 (7)

[57頁]

縣會議員 150

新聞社員 18

代言人 19

教師 10

僧侶 4

會社銀行員 19

博士 2

學士 14

醫師 3

族籍上ノ區別

士族 141

平民 151

以上日本新聞社ニヨル

十日 晴

更科氏ヨリ書状來タル

連日雨天、漸霽レ氣神快々」タリ

熊倉氏来訪

露国虚無党捕縛セラル

刺病長崎ニ於テ、益猖獗」一九二人ノ

内、九八人バカリ死」ス、朝野ノ衛生

家醫師大ニ

[58頁]

狼狽ス

浮城物語ヲ讀ム、当世ノ頭」地ヲ出シ

タル者ナリ、字々風霜」烈日ノ如トク、

大ニ精神ヲ鼓舞」ス、吾レ此流ノ書ノ

世ニ出デンコト」ヲ望ゾム

十一日 晴

博覽會褒賞授與式執行

木村氏来遊、共ニ菊坂亭ニ往ク

漸ヤク暑ヲ覺ボヨ

褒賞ノ類別

名譽賞 七

進歩 { 1等 1 8
2々 5 7
3々 1 0 2

妙技 { 1等 1 3
2々 6 9
3々 1 3 5

褒状 1 1 7 4 1

有功 { 1等 1 0 7
2々 7 3 3
3々 3 1 2 4

[59頁]

協賛 { 1等 3
2々 3
3々 9

旧學友鈴木実氏、脚病ヲ以テ本月」一日其郷里ニ没スルヲ聞キタリ
吉川勘十郎氏ニ書ヲ送クル

十二日 晴

関諸氏ト薬師縁日ヲ觀ル

十三日 晴

佐藤氏ヲ訪問ス
正午自由亭ニ於テ長善館同窓」會月次例會ヲ開ラク、会スル者」十二人、演説 囲碁 遊戲等アリ、衆皆歡ヲ尽クシテ分袂ス
熊倉氏來訪共ニ富士本亭ニ」往ク、乙谷嫩軍記忠臣蔵」勘平ノ淨溜哩(瑠璃)アリ
歸時十一時也、此日余ハ鈴」木実君ノ遠逝弔詞起草委員ノ」任ヲ受ク

[60頁]

十四日 晴

第一医院ニ往ク
大學事務室ニ往ク

十五日 晴

第一医院ニ往キテ、耳疾ノ療治ヲ」請フ
熊倉氏ヲ訪問ス
独逸文 (Tiger) ヲ作クル
七時 (午後) 頃地震アリ、尤ト」モ微動ナリキ

十六日 晴

本郷麟祥院ニ於テ徴兵身体」検査ヲ受ク、丁種ニ編入セラ」ル
両国烟火アリ
銀貨案、北米大統領ノ批准ヲ」経タリ
日本新聞社ハ、後來投機商」ノ害ヲ防セギ、米價ノ乱高下ヲ」保持センカ為メ、義倉常平倉ノ」類ヲ設クル方可然ト論ジタリ

[61頁]

外国米続々輸入セラレ、米價」モ追々下ルノ模様アリ
長崎縣ニ於テ刺病益流行
初発ヨリ今日迄患者三百六十一」人、死者二百七人ナリ
朝顔花漸ヤク開ラク
蟬ノ声モ十二三日前ヨリ時々」聞コユ
茄子 胡瓜等続々市上ニ出デ」桃 甜瓜 西瓜 梨ノ類、青紅ヲ競」フテ市上ニ愛ヲ求トム
昆太利物語中巻ヲ讀ム

十七日 晴

第壹医院ニ往ク、耳療ヲ受ク、医」師長カク金ノ棒ヲ鼻中ニ差込ミ」為メニ涙出デ甚ハダ苦ルシカリ」シ、帰路大學事務室ニ至タリ
熊倉氏ニ邂逅ス

十八日 晴

大學ヨリ書状來タリ、試験不」合格ノ旨通知サレタリ

[62頁]

石田英吉氏農商務次官ニ任」セラレタ

リ
小林 阿部ノ両氏ヲ訪問ス
家大人並ニ鈴木先生ヘ書ヲ」呈ス
今月八日若州暴動起コリ警官」ハ鎮撫
ノ為メ四人ヲ切り、漸」ヤク鎮定シタ
リ

十九日 晴

医科大學医院ニ往キ耳療ヲ受ク
熊倉氏ヲ訪問スルコト二度、不在ナ」
リ
地震アリ
吉川氏ヨリ書状来ル
吉川新八氏ニ書ヲ発ス
S i a mノ皇族ハスラングセ殿下」ハ
横濱ニ着港セラレタリ

[6 3 頁]

廿日 晴

[6 4 頁]

廿四日 晴

熊倉氏来訪
西班牙国新内閣ハ左ノ通り」組織セラレタリ
内閣總理大臣 カノーウ`アス氏
外務大臣 テチュアン公
内務大臣 シルウエラ公
陸軍大臣 アスカラーガ氏
大藏大臣 コスガヨン氏
殖民大臣 ファビエー氏
教育及農務商
務大臣 イサ、氏
海軍大臣 ベランヘル氏
司法及教部大臣 ウ`イリヤウ`エルデ氏

大學ニ往キテ治療ヲ受ク
貴族院 衆議院兩院書記」官各任命セ
ラレタル者十三四」名ナリ
第一高等中学入学試験独」逸語學生ノ
擬答ヲ作クル

[6 5 頁]

廿五日 雨

連日晴天ナリシガ、昨夜小雨」蕭々ト

石塚氏来訪
関 木村兩氏ト共ニ熊倉氏ヲ訪問ス
熊倉氏ヲ訪問ス

廿一日 晴

熊倉氏ノ為メニ木村氏ト共ニ上槇町」
廿一番地里見三策氏ニ趣ムク

廿二日 晴晩雨

熊倉氏ヲ訪問ス
更科氏来訪シタリト雖モ、余不在」ナ
リシ
早川氏ヲ訪問シタリ、不在ナリ

廿三日 晴

早川氏外同氏ノ朋友来訪
佐藤氏ヨリ書状来タル
熊倉氏来訪
木村氏来訪

降り、今朝ハ特ニ耳辺ニ」点滴声カマ
ビスシカリシ、隣ノ」小女ノ歌モ閑カ
ニヲカシ
更科氏ニ書翰ヲ発ス
関氏ニ托シテ熊倉氏ニ書ヲ」送クル、
同氏ヨリ返事来タル

廿六日 曇

更科氏ヲ訪問ス

日本新聞発行停止
集會政社條例改正ノ件ヲ發布ス
熊倉氏來訪
佐藤氏ト共ニ大學醫院ニ往ク
熊倉氏出立
日本新聞停止ニ相成候故、大」同新聞
購読ニ決シタリ

[66頁]

廿七日 晴

山崎氏ヲ訪問ス

廿八日 晴

更科氏來訪シ共ニ上野ニ」遊ソブ

各國議員割合

国名	議員	議員一人ニ付人口
米	325	154000
希	150	132000
澳	353	66000
普	432	69000
佛	584	65000
伊	508	59000
英	670	56000
和	100	49000
白	138	43000
葡	149	32000
丁	102	19000

鉄血翁ハ辭職後不平ノ」念遣方ナク外
国ニ向カッテ国」家ノ機密ヲ漏ラシ、
以テ快トシ」

為メニ告訴セラレントシ、皇帝ハ

[67頁]

之ヲ宥ダメ宰相Capiriviヲシ
テ」翁カ言ハ、一私言ナリ、帝国ヲ代
表スル」者ニアラズト、各国ニ通知セ
シメタ」リ、若シ翁ニシテ果タシテ此
事アラシ」メンカ、翁ハ亦タ豪傑ノ士

ト云フベ」カラズ、翁ハ身体ノ老弱ノ
ミナラズ、精」神モ老弱セリト云フ
ベシ

石川島監獄囚ノ數ハ、千九百九十」三
人、之ヲ昨年ノ当季ニ比スレバ」二百
名前後ノ増加ニシテ、年齢」ハ二十才
以上三十才未滿ヲ最ト」シ、三十才
以上ニ至リテハ頗ブル」少」ナシ、又
病囚ハ六十三人アリト云フ

奧地利国第二皇女ウ」アレリヤ」大公
主ハ、其愛スル男ニ婚センガ」為メ、
去月十六日 皇族會議ニ於」テ、公然
皇位繼承權ヲ放」棄シタモヘリ、愛ノ
熱度ハ果タシテ」此ノ如トク非常ナル
者カ、余之ヲ」詩人ニ問ハント欲ス
日本橋区檜物町ナル結婚」媒酌所ニ於
テ觀察スルニ、今年ハ」呉レ方クシ
テ、貰ヒ方少ナキヨシ、畢

[68頁]

竟米價ノ騰貴生活ノ困難ナルニ」ヨラ
ズンバアラズ

統計学ハ万學派ニ遇シテ要用」ナル者
ナリ、論理學モ猶ホ此ノ」如トシ、余
ハ此等ノ學問ヲハ高等」学科ノ各科ニ
適用実践シタク思」フ者ナリ

深川電燈會社ニ、先頃ヨリ州崎」遊廓
ノ依頼ヲ受ケ、幻燈ニテ」同処ノ大物
ヲ寫出シテ、公衆ノ觀」覽ニ供シ、隨
分大入叫ナリト、會」社夫レ人ナキカ

廿九日 晴

祖父君ヨリ書状來タル
塩せんべをかむ
かりたあがてべをなす

卅日 晴

本郷郵便局ニ至タリ、為替」金十円ヲ
受取ル

[69頁]

布哇国ノ内閣ハ左ノ如ク組織」セラレタリ、六月十七日

外務大臣 ゼー、エー、カンミンズ
大蔵大臣 ゴットツレー、ブラウン
内務大臣 シー、エヌ、スペンサー
検事長 エー、ピー、ペータソン

去月二十六日中央亜米利加サン」サルバドル革命アリ、同国大統領」メネンデース將軍ハ、エセダ將軍ノ」為メニ殺ロサレタリ、ギロラ將軍ハ其」後任ヲ襲フベシト人々信セリ、又タ」エセダ將軍ノ行為ニ付キ、同国人」餘マリ信服セズ

自由党解党、大同倶楽部政社」組織ヲ解キタリ、蓋タシ庚寅俱」楽部ノ議ニ從ヘシナリ

卅一日 晴

祖父君ニ書ヲ呈ス

木村氏來訪ス

サンサルバドル革命ノ源因ハ、同」国大統領メネンデース氏、ホンヂュ」ラス大統領 ボ克蘭氏、グアテマラ

[70頁]

大統領パーリラス氏ノ三人聯合シ」テ、中央亜米利加五共和国聯合ノ」議ヲ決シ、三人各自一年交代ニテ合」同大統領ノ職ニ登ルベシト約シ」他ノ二共和国（コスタリカ）及ビ（ニカル」グア）ノ二国ニ是非共同意ヲ表セシ」メントスルコトナルガ、サンサルバドル」人先ヅ不服ヲ唱ナヘ、遂ニ大統領」ヲ廢シ、出奔人ノ（ザルシア」ル）及ビ（モラン）兩人ヲ召喚シ墨耳古ニ」援ヲ求メリ

南亜米利加アルゼンチン共和」国ノ首府（ブエノスエールズ）ニ於」テ兵士反乱ヲ生ジ、大統領」ドクトル、ミギユール、ジアレーズ、セルマン氏ハ脱走シ、反徒ノ組」織シタル政府ハ、其權力ヲ布告」セリ（七月廿九日 L o n

d o n)

博覽會閉場執行ニ付」臨御被遊タリ米價モ追々下落ノ徵候ヲ顯」ハシタリ、蓋シ地方好作ノ由ト」外国米続々入津ノ為メナラン

[71頁]

兎ニ角慶賀スベキ事ナリ、而シテ彼」ノ是迄奸猾ヲ逞フシタル小人等ハ」大ニ困究シ内幕頗ブル苦シ者」アリト、自業自得ト云フベシ

商法延期可否ニ付、一方ニハ山田」伯非ヲ執リ、一方ニハ村田議官」等可ヲ報（執）リ、朝野鬻々タリ」余ハ寧シロ多少ノ延期アランコトヲ」企望ス、（プールズ）ノ一条亦タ好」的例ナラズヤ

刺病モ此分ナラバ今年ハ左」迄□況ヲ生スルコトナカルベシ

條約改正論ノロソロ首ヲ擡」出シタリ、其ノ一二ハ、T i m e sニ」顯ハレタリ、然カシ、余ハ此等ハ今」年ノ議會ニ議セラランコトヲ企望ス

否ナ、是非共議會ハ之ヲ議サ、ル」ベカラズ

何時ナガラ條約論ノ端緒ヲ」外国新聞ヨリハ見出スハ遺」憾ノ事ナリ

[72頁]

近頃閑ヲ得テ、新約全書ヲ繙」トク、余ハ淺見カハ知ラネトモ」耶蘇ハ是レ一箇ノ大胆不敵」傲慢自持スルノ人ナリト謂ハ」サルベカラズ、温良恭儉讓ノ」美德ハ、其ノ長スル所ニ非ラザル也

寧シロ聖人君子ト云フヨリモ、英雄」豪傑ノ氣風アル者ト謂ハザルベ」カラズ、其言烈々火ノ如トク、浪ノ如」トシ、千載不磨ノ言、解頤ノ辭甚」多シ衆議院議員撰挙ノ形迹」ヲ察スルニ、大ニ痛哭スベキ者アリ、賄賂ヲ以テ得ル者アリ、脅迫」ヲ以テ得ル者アリ、請託ヲ以テ」得ル者、官威ヲ以テ、重位ヲ以」テ得ル者アリ、登龍門ヲ得

テ」告訴セラル、者アリ、拘留セラ
ル」、者アリ、之ヲ要スルニ、大ニ政
事」社會道德ノ汗下セルヲ示メス」者
続々トシテ出デタリ、元來我」国第一
會ノ撰擧ナレバ、經驗」ノ未ダ足ラズ、
撰被撰擧両方

[73頁]

ノ未マダカ、ル事務ニ熟練セザル」ヨ
リシテ、如此醜態ヲ生シタル」コトア
リト雖モ、畢竟スレバ撰擧」法ノ未
マダ完全ナラザルヨリシ」テ來タル
者ヲシ、撰擧区ノ」小ナルハ、人オ
ヲ塞サギ、奸媒ヲ」運ラスニ便利ナラ
ズヤ、財産ノ」非常ナル制限ハ請託
贈遺」ヲ盛ンナラシムル源因ナラズヤ
是ヲ要スルニ人才ノ用処ヲ塞サギ」テ
一部ノ人ヲシテ或ハ僥倖ヲ得」セシム
コトニアリ

吾人ハ是ニ至リテ蓋集會政社」法ノ規
制ヲ寛大ニシテ、政事家」ノ情ヲ四方
ニ通サシメ、勤メテ公」明正大ノ運動
ヲ為サシメント」欲スル也

嗚呼、帝國議會ニ於テ撰擧」法ノ改正、
言論集會ノ條例ヲ」バ改正セザルベカ
ラズ、今年ノ」議會ハ、其全力ヲ振發
シテ之ヲ」改正セザルベカラズ

[74頁]

魯政府ハ土政府ニ迫マルニ、償金」返

[76頁]

- | | | |
|-------|---------------|-------|
| 依田雄甫 | 神田小川町一番地 | 依田百力方 |
| 野田 寛 | 小石川区土富坂町十五番 | 有斐学校 |
| 更科文三郎 | 本郷区六丁目廿九番地 | |
| | 今井□次郎方 | |
| 保倉辰一郎 | 本郷弓町二丁目三十三番地 | |
| 永井宗平 | 本郷湯島 | |
| 小林魁郎 | | |
| 更科文三郎 | 小石川区小石川表町二十番地 | |
| 島山慎吉 | 糞町飯田町五八 | |
| 田巻貞次郎 | 田町卅六番地 | 川井方 |
| 早川平治 | 本郷湯島新花町八十九番地 | |
| | 福田カネ方 | |

辨ノ事ヲ以テシタリ、独逸政府ハ」土
府駐在公使ラドウイツ氏ヲシ」テ土耳
古政府ニ忠告セシメ、之ニ應」ズルノ
手段ヲ準備セシメント欲」セリ、且ツ
独逸ハ（フヘルジカンド）公」ヲ廢シ、
瑞典ノ一公子ヲ登ボセ」ント欲シ、魯
政府宰相ドキールス」氏ハ、土政府ノ
要求ニ満足ス」ベキ者ニアラズト明言
セリ、而シ」テ希獵（セルビヤ）ノ
二国モ土耳」古ニシテ（バルガリヤ）
ニ譲ルアラバ」両国モ讓與ノ權ヲ受ク
ベキ者ア」リト要求シタリ、兎ニ角
（バルカン）半島」ニ事アルノ兆候ヲ生
ゼリ

山十醬油ハ博覽會審査官ノ」審査ヲ不
当トシテ、二万余円ノ損」害要償ヲ申
出デタリ

アーゼンタイン共和国ニ於テ、激」戦
ノ後賊ノ艦隊官軍ニ降参」ス、国都
（プエノスエールス）ハ、再ビ」平和ニ
ナリ、大統領トクトルセル」マン氏返
職セリ（L o n . 八月二日）

[75頁]

米国大蔵省ハ銀貨案ニヨリ、本月十三」
日ヨリ銀塊ノ購入ヲ始メタリ、銀」ノ
相場高カクナルベシ（八月二日）

田中久策	外神田区相生町二十一番地 太田市次郎方
阿部七次郎	錦町三丁目八番地 半田きう方
更科文三郎	高田町下小町 旅人宿 苗木徳次郎方
吉川新八	石川県金沢市上今町十四番地 小林ステ方